

2021年度 自己評価結果公表シート

富山短期大学付属みどり野幼稚園

1 本園の教育目標

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1 心も体も健康でいきいきとした子ども2 自分の思いや考えにもとづいて、園の生活に取り組む子ども3 友だちと共に園の生活を楽しみ、意欲的に行動する子ども4 身近な自然や人とのかかわりに心を動かし、感じたことや考えたことを素直に表現する子ども |
|---|

2 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- | |
|---|
| <p>依然として新型コロナウイルス感染症の影響が懸念されるものの、幼稚園型認定こども園としての安定した運営を基盤として、安全かつ安心できる生活と、幼児期にふさわしい経験の提供をめざす。また、次の2点を重点課題として取り組みたい。</p> <ol style="list-style-type: none">① カリキュラムマネジメントの実践 ～園環境、教材研究を中心に～② ICT活用、保育の見える化の促進 |
|---|

<昨年度の公表シートから：令和3年度に取り組むべき課題>

① PDCAサイクルの充実、保育記録の検討

本年度に取り組んだ「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を踏まえた指導計画作成と保育実践の振り返り（PDCAサイクル）の充実を図るためにも、指導のねらいを適切に評価し、保育改善につなぐ保育記録の方法を検討する。

② 健康で安全な生活の保障

新型コロナウイルス対策を継続して実施し、感染症対策に努めるとともに、子どもに必要な経験（園内外での集団活動や食に関する活動を含む）を保障するための、配慮や工夫を検討する。

③ 保育内容の充実（多様な学びと表現を重点に）

園内及び園庭環境と子どもの活動との関連を評価し、多様な学びと表現を導く保育環境や保育方法の工夫を行う。

④ 保護者との情報共有

日常的な保護者との情報共有を向上させることで、信頼関係の構築に努める。

3 評価項目の達成及び取り組み状況

① 園運営	<p>新型コロナウイルス対策に気を抜けない1年だった。昨年度の取組み（日常の感染対策や行事の持ち方など）に加えて、感染者や濃厚接触者が発生した場合の対応や感染拡大を防ぐ体制づくりなど、新たな課題に向き合うことも多かった。常に園児の経験と感染対策の優先度に悩みながら方針を決定することとなったが、園児の経験を最大限に保障しようと、職員が協働しながら、工夫と検討を重ねることができた。また、関係機関との連携が深まった。一方で、保護者支援や子育て支援では、直接交流の機会が減少し、十分な取り組みができなかった。</p> <p>満3歳児保育は2年目を迎え、見通しを持って取り組むことができた。定員を超える要望も見られるようになり、今後はあり方なども考えていきたい。</p> <p>園児数の減少、職員体制の変化など、次年度はさらなる課題が想定される。全職員による連携と柔軟な発想で運営にあたりたい。</p>
-------	--

② 教育課程	<p>「育むべき10の姿」に即して行った教育課程の見直しを継続して行い、年間指導計画等の作成・改善に活かした。また、幼児の姿にもとづく計画作成をめざして、ウェブ図の作成にも取り組んだ。教育課程や長期指導計画の見直しと同時に、子どもたちの興味や関心を捉えて保育を展開するために必要な記録のあり方について、次年度もさらに検討していきたい。</p>
③ 保育指導	<p>コロナ禍での制限を取り払うことはできず、園全体で楽しむ行事、食に関する活動などは実現が困難であった。また、コロナ感染状況によって、食事等の配席を固定したり、他学年との交流を避けるために遊びの場や時間を制限したりすることもあった。一方で、密にならない方法での行事の実施や、プロセスを工夫したクッキングの取り組みなど、コロナ禍の制限下でも「何ができるか」を考えながら保育に取り組み、園児の主体的な経験を保障した。その中で、ICT活用にも取り組んだ。教育課程の検討プロセスで確認した内容（5領域のねらい、10の姿）を保育実践の中に活かすことも心がけてきた。ウェブ図作成で、子どもの興味・関心の流れを再確認することで、保育者の意図をこめた環境構成や配慮の重要性を再確認することができた。今後も、保育実践に活かしていきたい。</p>
④ 幼児理解	<p>一人一人が多様な個性を表現する中で、できるだけ子どもの思いに寄り添い、丁寧に関わることで、幼児理解に努めてきた。個性を大切に、間をとりながら、時には辛抱強く、仲間やクラスの中で互いに認め合う関係が構築されるように関わることで、新たな子どもの姿が見られるようになった。そのことが、幼児理解の深まりにもつながった。</p>
⑤ 健康・安全	<p>感染症対策のため、細やかな健康チェックやマスク着用等の指導、食事場面での配慮を重ね、子どもたちの生活にも感染対策が定着した。また、感染症発生が疑われる時には、すみやかに対応し、感染拡大防止に努めた。疾患を持つ園児について、疾患の理解や救急対応など、職員間で学び合い共通理解を持って対応できるよう努めた。園バスシートの一部に子ども用シートベルトを設置。園内で起きた事故については、その都度要因と対策を検討した。</p>
⑥ 子育て支援	<p>密な環境を避けるため、1号認定の預かり保育などで優先順位をもうけて対応することもあったが、保育が必要な家庭の支援を欠くことのないよう努めた。保護者の送迎場所の限定や行事縮小による対話不足は十分に解消できなかったものの、ブログ更新数の増加、ZOOMによる懇談会実施など、ICT活用による支援を実施することができた。1月以降のコロナ感染拡大により、親子サークルを中止せざるを得なかったのは残念であった。</p>
⑦ 職員の研修及び資質向上	<p>県外での研修等には参加できなかったが、各団体等のリモート研修が充実しており、それぞれの職員が熱心にとりくみ、職員並びに園の保育資質向上につながった。また、教育課程をテーマとした園内研修に積極的に取り組み、その内容が、行事の運営改善や子どもの経験内容の評価、園庭環境改善などに十分に反映された。次年度も継続して行っていきたい。</p>
⑧ 地域との交流 (学園内交流含む)	<p>コロナ禍で、地域との交流行事は行えなかった。短大生の実習も、予定を大幅に変更せざるを得ず、園児との直接交流の機会をほとんど持つことができなかった。そのような中で、防火活動や子どもの城（県産材遊具）建築等を通して社会活動への興味を高めたり、自分たちの関心事に基づいて地域のことを調べたり訪ねたり（年長児の遠足等）したことが、有意義であった。次年度も子どもの興味や関心と社会生活とのつながりを意識していきたい。</p>

＜全体的な評価＞

年間を通して新型コロナウイルスの影響を考慮せざるを得ず、常に、現状でできることを模索しながら保育や家庭支援にあたってきた。予測ができない感染状況に過度の不安を感じて対応することがあったと思うが、経験を重ねることでも、必要な感染対策の範囲と実施できることの内容に見通しを持てるようになってきた。ブログやZOOMの活用など、様々な方法を使って、園児の体験や保護者との情報共有を図る取り組みも進めることができた。次年度も予測できない状況に直面することになると思うが、職員間や保護者と情報を共有し、ともに「安全な環境で最大の経験を」という目標にむけて試行錯誤しながら取り組みを進めていきたい。

また、教育課程・指導計画をテーマにした園内研修の充実が、幼児理解及び幼児の姿に基づく保育展開、園庭環境の充実につながった1年であった。次年度も継続して取り組んでいきたい。

＜次年度に取り組むべき課題＞

① 健康で安全な生活の保障（継続）

新型コロナウイルス対策を継続して実施し、感染症対策に努めるとともに、子どもに必要な経験（園内外での集団活動や食に関する活動を含む）を保障するための、配慮や工夫を検討する。

② 保育記録の検討とPDCAサイクルの充実（継続）

本年度までに取り組んだ「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を踏まえた教育課程・長期指導計画を土台としながら、成と保育実践の振り返り（PDCAサイクル）の充実を図るためにも、指導のねらいを適切に評価し、保育改善につなぐ保育記録の方法を検討する。

③ 保育環境の充実

子どもの適切な評価から、園内及び園庭環境の改善、教材研究を進める。

④ ICT活用による保育の充実と子育て支援

子どもの直接体験を重視しながら、効果的なICT活用を図るとともに、保護者への情報発信及び情報共有のツールとしてのICT活用を図る。

本園の保護者及び学園係者から得た意見を参考に、一層の教育内容及び子育て支援に努めていきたいと思いをします。

富山短期大学附属みどり野幼稚園

園長 石動 瑞代